

本高DNAあるいは右文尚武神について

校長室から見える中庭のけやきの樹々は、まだ少し緑色の葉をのこしてはいるが、大部分は赤や黄色に変わり、風が吹くとはらはらと芝の上に秋色を散らしている。

10月6日、創立110周年記念式典が本高体育館で挙行された。この日のために準備に当たってくれた方々の思いが結晶し、おかげで厳粛な中にも未来への飛躍を誓い合うすばらしい式典になったと思う。司会を務めた2人の2年生は聞き惚れるような進行ぶりだったし、生徒会長のあいさつは現代の社会情勢の中で自分たちの果たすべき役割を見据えた、若者の熱と知性溢れるものであった。駐車場や受付・案内、接待などで澁刺と動き回る本高生たちは一陣の爽やかな風を巻き起こしてくれた。

佐藤一成県教育委員長が、私も本高の同窓生です、と話を切り出され、3つの校標を教育方針とする本高で学ぶ意味について語りかけてくださった時に、その言葉の一つ一つがみんなの心にストレートに吸い込まれていくのがわかった。右文尚武、質実剛健、玲瓏同氣の校標は本高のDNAとしてこの110年の間確かに受け継がれ、先輩と後輩の間で感応しあっているように感じられた。



さて、その右文尚武である。「精神は文教によりて養成せざるべからず」という小野初代校長の訓話は、式辞の中で触れた。武による鍛錬になお、文によりて精神を養成すべし。学ぶことの中に、精神は鍛錬され、より高い頂へと飛び立つ。これが本高のもっとも重要なDNAである。

天佑自助。天は自ら助くる者を助く。Heaven helps those who help themselves.自ら困難を打開しようと懸命な努力を続けている者に、天はきっと味方をしてくれる。部活動の中心となって頑張っている2年生は、実感をもって理解できるだろう。部活で帰宅時間は遅く、体も疲れ果てている。シーズン中の土日は遠征や練習試合だ。1日の中で勉強にあてられる時間はそんなに多くはない。

どんなに時間が足りなくても、体がどんなに疲れていても、それでもこじ開けるように時間を見つけ、鉛筆を握る。どんなに時間がなくても、授業中は勉強に専念できる時間だ。部活で鍛えた集中力で、授業中にすべて覚えてやろう。

そんな生徒を、天は必ず助けてくれる。本高にはこの110年住み着いている右文尚武神という神様がいて、一人一人をつぶさに観察している。「あ、この生徒は部だけど、本当に一生懸命取り組んでるな」と評価が下れば、全力で守ってくれるのだ。

君は経験したことがないだろうか。試合がまるで何かに操られるように、本高のリズムになってしまう瞬間を。あるいは逆に、まるで嘘のようにミスが重なってしまうゲームを。そんなときには、周りを見渡してみるといい。どこかに右文尚武神がおわしているに違いない。